

医療費抑制と産業成長両立へ

国際医薬品原料・中間体展

CPhI 講演

黒岩 拓実 氏

経産省・商務情報政策局生物化学産業課課長補佐



医療産業の成長ポテンシャルは大きいと語る黒岩氏

先制、個別化、再生分野を拡充

となつてゐる」と指摘。経産省では医療費抑制にも貢献する先制医療、個別化医療、再生医療の3分野の研究開発強化、産業基盤整備を進めることで課題解決の道を開こうとしている。

先制医療では血液など体液から簡単、高精度に疾患を発見できる検査技術の開発を支援している。

個別化医療では国内でバイオ薬品製造技術の確立すること、個別化医療をやりやすい環境を作ること目指している。

再生医療では再生医療製品開発の加速化、製造の低コスト化に向けた研究開発を支援しているほか、産業拠点整備の一環として川崎市殿町地区に完成したライフイノベーションセンターに補助金を支出。外国企業への対日投資拡大を図り国際連携にも注力する。2015年度補正予算で、再生医療とIoT（モノのインターネット）の2分野で外国企業が日本企業・大学と連携して国内に研究開発拠点

を設置する場合、補助金を支出することも決めた。

黒岩氏は、日本の再生医療産業の国際競争力強化に向け、日本を各国の再生医療企業が集積するイノベーション拠点にし、世界で最も早く再生医療製品が上市できる国にすることが重要」と力説。外国企業が日本で研究開発をすることで、日本の再生医療の周辺産業にもビジネスチャンスが広がることも考える。日本の周辺産業が外国企業との協業を通じて力をつけることができる。その後、海外展開した際に、エリア拡大が期待できる」と説明した。

黒岩氏は、年率約8%という世界医療費の伸びは年率約3%という世界の自動車販売台数の伸びを上回り、2022年には医薬品市場規模（246兆円）が自動車市場規模（24兆円）を越えたと予測するデータを提示。医療産業の成長ポテンシャルは大きく、有望な市場であることは間違いない。日本としても将来を支える産業として医療を強くしていく必要がある」と述べた。